

## A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	<b>13.8</b> 年
--------	---------------

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
$ER$	排出削減量	tCO2/年	4
$EM_{BL}$	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	10.6
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	5.8

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の「排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動」に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

##### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の「排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動」に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 付随的な排出活動である「バイオマス原料の運搬」、「バイオマス固形燃料の運搬」については影響度による算定を、「バイオマス固形燃料化処理設備の使用」、「対象設備に付帯する追加設備の使用」についてはモニタリングによる算定を行う。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	0.1	2.0	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料化処理設備の使用	5.4	135.0	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料の運搬	0.1	1.4	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
対象設備に付帯する追加設備の使用	0.2	6.0	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	5.8	144.4	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1 バイオマス固形燃料（木質ペレット）を活用するため、プロジェクト実施後の主要排出量は 0 tCO2/年である。

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport,feedstock} + EM_{PJ,S,proces} + EM_{PJ,S,transport,biosolid} + EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (\text{式4})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	5.8
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	5.4
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.2

$$EM_{PJ,S,transport,feedstock} = F_{PJ,S,transport,feedstock} \times HV_{PJ,transport,feedstock} \times CEF_{PJ,transport,feedstock} \quad (\text{式5})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$F_{PJ,S,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	KL/年	0.0309
$HV_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.7
$CEF_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,proces} = 0.6 \times PV_{PJ}$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	5.4
0.6	バイオマス固形燃料化処理設備の使用におけるプロジェクト実施後排出原単位（デフォルト値）	tCO2/t	0.6
$PV_{PJ}$	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	9.0

$$EM_{PJ,S,transport,biosolid} = F_{PJ,S,transport,biosolid} \times HV_{PJ,transport,biosolid} \times CEF_{PJ,transport,biosolid} \quad (\text{式8})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	バイオマス固形燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$F_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	KL/年	0.0217
$HV_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.7
$CEF_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,auxiliary} = EL_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,t} + F_{PJ,auxiliary} \times HV_{PJ,auxiliary} \times CEF_{PJ,auxiliary} \quad (\text{式9})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.2
$EL_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	496
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000487

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の熱源設備による生成熱量を、プロジェクト実施後の熱源設備からではなく、ベースラインの熱源設備から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat,output} = Q_{PJ,heat,output} = F_{PJ,biosolid} \times HV_{PJ,biosolid} \times \epsilon_{PJ}/100 \quad (\text{式b-1})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備における生成熱量	GJ/年	133.1
$Q_{PJ,heat,output,K}$	プロジェクト実施後の対象設備における生成熱量（いちごKハウス）	GJ/年	133.1
$F_{PJ,biosolid,K}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量（いちごKハウス）	t/年	9.0
$\epsilon_{PJ,K}$	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率(低位)（いちごKハウス）	%	87.0
$HV_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量（低位）	GJ/t	17.0

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って、排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = Q_{BL,heat,output} \times 100 / \epsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式b-5})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	10.6
$EM_{BL,K}$	ベースラインの主要排出量（いちごKハウス）	tCO2/年	10.6
$Q_{BL,heat,output,K}$	ベースラインの対象設備による生成熱量（=Q <sub>PJ,heat,output</sub> ）いちごKハウス	GJ/年	133.1
$\epsilon_{BL,K}$	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率(低位)（いちごKハウス）	%	89.7
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0714

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式 )

記号	定義	単位	想定値

#### A. 4.1 モニタリング計画

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>F<sub>PJ,biomass,K</sub></i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量 (いちごKハウス)	t/年	A	ペレット供給会社からの納品書より把握する	月	9	別いちごハウスの灯油使用量の実績値より必要熱量を計算して推測	
<i>F<sub>PJ,transport,feedstock</sub></i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	kL/年	C	送距離及び使用車両、燃料、積載率の変更の有無を確認して把握する	年	0.0309	輸送距離及び使用車両、燃料、積載率に基づいた燃費法	
<i>F<sub>PJ,transport,biomass</sub></i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	kL/年	C	送距離及び使用車両、燃料、積載率の変更の有無を確認して把握する	年	0.0217	輸送距離及び使用車両、燃料、積載率に基づいた燃費法	
<i>PV<sub>PJ</sub></i>	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	A	ペレット供給会社からの納品書より把握する	月	9	暖房燃料のシュミレーション数値より	
<i>EL<sub>PJ,auxiliary</sub></i>	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	C	搬送機のモーターおよび循環ポンプの定格消費電力が書かれた銘盤写真を保管 設備定格電力×設備稼働時間で把握	月	496	カタログでの設備定格電力×稼働時間	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B (計量器) を用いる場合には、A. 4. 2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C (概算等) を用いる場合には、A. 4. 3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>HV PJ,transport,feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料の単位発熱量	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	37.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>HV PJ,transport,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	37.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>CEF PJ,transport,feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	0.0686	デフォルト値	
<i>CEF PJ,transport,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	0.0686	デフォルト値	
<i>E BL,K</i>	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率 (いちごハウス)	%	Ⅱ	カタログ値を使用する (ネボン㈱、㈱タケザワ、三州産業㈱)	-	89.7	カタログ資料	低位発熱量基準
<i>E PJ,K</i>	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率 (いちごハウス)	%	Ⅱ	カタログ値を使用する (矢崎総業㈱)	-	87.0	カタログ資料	低位発熱量基準
<i>HV PJ,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量 (低位)	GJ/t	Ⅱ	供給会社からの分析結果報告書を使用する (アジアンリソース㈱)	年	17.0	当該プロジェクトで使用するペレットの分析値	低位発熱量基準
<i>CEF ele c tricity,t</i>	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	-	0.000487	デフォルト値	全電源2012年度
<i>CEF BL,fuel</i>	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(灯油)を使用する	-	0.0714	デフォルト値	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。  
 分類Ⅰ (実測) を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類Ⅱ (第三者提供値) を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

## A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

### （1）計量器の概要

#### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

#### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

### （2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--



### A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量、 ②プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量、 ③プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量
(推定・概算方法)  ①プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量 (KL) $= \text{輸送量 (t)} \times \text{輸送距離 (km)} \times \text{輸送トンキロ当たり燃料使用量 (L/(t \cdot km))} / 1000$ 輸送量…バイオマス固形燃料提供事業者による購入伝票により把握 9t/年 輸送距離…バイオマス固形燃料の原料伐採地～固形化处理施設までの走行距離27.7km 輸送トンキロ当たり燃料使用量…トンキロ法にて算出 ※モニタリング算定規程（排出削減用） p 19～20 「車両の燃料使用原単位」による 小型・普通貨物車（軽油）、最大積載量2,000kg、平均積載率58%、営業用 …原単位0.124L/t・km よって $9\text{t/年} \times 27.7\text{km} \times 0.124 / 1000 = 0.0309\text{KL}$  ② プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量 (KL) $= \text{輸送量 (t)} \times \text{輸送距離 (km)} \times \text{輸送トンキロ当たり燃料使用量 (L/(t \cdot km))} / 1000$ 輸送量…バイオマス固形燃料提供事業者による購入伝票により把握 9t/年 輸送距離…バイオマス固形燃料の原料伐採地～固形化处理施設までの走行距離28.6km 輸送トンキロ当たり燃料使用量…トンキロ法にて算出 ※モニタリング算定規程（排出削減用） p 19～20 「車両の燃料使用原単位」による 小型・普通貨物車（軽油）、最大積載量4,000kg、平均積載率62%、営業用 …原単位0.0844L/t・km よって $9\text{t/年} \times 28.6\text{km} \times 0.0844 / 1000 = 0.0217\text{KL}$  ③ プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量 ペレット搬送用モーター定格消費電力 137W × 1台 稼働時間…保守的に暖房運転時期は24時間稼働すると考える 稼働日…運転管理表よりシーズンの運転開始日および運転終了日を確認する よって $137\text{W} \times 1\text{台} \times 24\text{h} \times 151\text{日} \div 1000 = 496\text{kWh/年}$  (モニタリングポイント)	

#### A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類 A～分類 C)に進じた説明を

モニタリング項目		

## A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	<b>9.4</b> 年
--------	--------------

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
$ER$	排出削減量	tCO2/年	7
$EM_{BL}$	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	15.3
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	8.3

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の「排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動」に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

##### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の「排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動」に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上とはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 付随的な排出活動である「バイオマス原料の運搬」、「バイオマス固形燃料の運搬」については影響度による算定を、「バイオマス固形燃料化処理設備の使用」、「対象設備に付帯する追加設備の使用」についてはモニタリングによる算定を行う。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	0.1	1.7	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料化処理設備の使用	7.8	111.7	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料の運搬	0.1	1.2	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
対象設備に付帯する追加設備の使用	0.3	4.8	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	8.3	119.4	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1 バイオマス固形燃料（木質ペレット）を活用するため、プロジェクト実施後の主要排出量は 0 tCO2/年である。

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport,feedstock} + EM_{PJ,S,proces} + EM_{PJ,S,transport,biosolid} + EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	8.3
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	7.8
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.3

$$EM_{PJ,S,transport,feedstock} = F_{PJ,S,transport,feedstock} \times HV_{PJ,transport,feedstock} \times CEF_{PJ,transport,feedstock} \quad (式5)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$F_{PJ,S,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	KL/年	0.0447
$HV_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.7
$CEF_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,proces} = 0.6 \times PV_{PJ}$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	7.8
0.6	バイオマス固形燃料化処理設備の使用におけるプロジェクト実施後排出原単位（デフォルト値）	tCO2/t	0.6
$PV_{PJ}$	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	13.0

$$EM_{PJ,S,transport,biosolid} = F_{PJ,S,transport,biosolid} \times HV_{PJ,transport,biosolid} \times CEF_{PJ,transport,biosolid} \quad (式8)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	バイオマス固形燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.1
$F_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	KL/年	0.0314
$HV_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.7
$CEF_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,auxiliary} = EL_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,t} + F_{PJ,auxiliary} \times HV_{PJ,auxiliary} \times CEF_{PJ,auxiliary} \quad (式9)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.3
$EL_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	496
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000487
$F_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における灯油使用量	KL/年	0.038
$HV_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備に使用する燃料の単位発熱	GJ/KL	36.7
$CEF_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0678

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の熱源設備による生成熱量を、プロジェクト実施後の熱源設備からではなく、ベースラインの熱源設備から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat,output} = Q_{PJ,heat,output} = F_{PJ,biosolid} \times HV_{PJ,biosolid} \times \epsilon_{PJ}/100 \quad (\text{式b-1})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備における生成熱量	GJ/年	191.6
$Q_{PJ,heat,output,F}$	プロジェクト実施後の対象設備における生成熱量（いちごFハウス）	GJ/年	191.6
$F_{PJ,biosolid,F}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量（いちごFハウス）	t/年	13.0
$\epsilon_{PJ,F}$	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率(低位)（いちごFハウス）	%	86.7
$HV_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量（低位）	GJ/t	17.0

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って、排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = Q_{BL,heat,output} \times 100 / \epsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式b-5})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	15.3
$EM_{BL,F}$	ベースラインの主要排出量（いちごFハウス）	tCO2/年	15.3
$Q_{BL,heat,output,F}$	ベースラインの対象設備による生成熱量（=Q <sub>PJ,heat,output</sub> ）いちごFハウス	GJ/年	191.6
$\epsilon_{BL,F}$	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率(低位)（いちごFハウス）	%	89.3
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0714

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式 )

記号	定義	単位	想定値

#### A. 4.1 モニタリング計画

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>F<sub>PJ,biomass</sub></i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量 (いちごFハウス)	t/年	A	ペレット供給会社からの納品書より把握する	月	13	別いちごハウスの灯油使用量の実績値より必要熱量を計算して推測	
<i>F<sub>PJ,transport,feedstock</sub></i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	kL/年	C	送距離及び使用車両、燃料、積載率の変更の有無を確認して把握する	年	0.0447	輸送距離及び使用車両、燃料、積載率に基づいた燃費法	
<i>F<sub>PJ,transport,biomass</sub></i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	kL/年	C	送距離及び使用車両、燃料、積載率の変更の有無を確認して把握する	年	0.0314	輸送距離及び使用車両、燃料、積載率に基づいた燃費法	
<i>PV<sub>PJ</sub></i>	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	A	ペレット供給会社からの納品書より把握する	月	13	暖房燃料のシュミレーション数値より	
<i>F<sub>PJ,auxiliary</sub></i>	プロジェクト実施後の追加設備における灯油使用量	kL/年	C	設備の燃料タンク容量および給油回数	月	0.038	タンク容量から計算	
<i>EL<sub>PJ,auxiliary</sub></i>	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	C	搬送機のモーターおよび循環ポンプの定格消費電力が書かれた銘盤写真を保管 設備定格電力×設備稼働時間で把握	月	496	カタログでの設備定格電力×稼働時間	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B (計量器) を用いる場合には、A. 4. 2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C (概算等) を用いる場合には、A. 4. 3において概算・推定方法の詳細について説明すること。



(2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>HV PJ,transport,feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料の単位発熱量	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	37.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>HV PJ,transport,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	37.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>CEF PJ,transport,feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	0.0686	デフォルト値	
<i>CEF PJ,transport,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	0.0686	デフォルト値	
<i>ε BL,F</i>	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率 (いちごFハウス)	%	Ⅱ	カタログ値を使用する (ネボン㈱、㈱タケザワ、三州産業㈱)	-	89.3	カタログ資料	低位発熱量基準
<i>ε PJ,F</i>	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率 (いちごFハウス)	%	Ⅱ	カタログ値を使用する (㈱相愛)	-	86.7	カタログ資料	低位発熱量基準
<i>HV PJ,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量 (低位)	GJ/t	Ⅱ	供給会社からの分析結果報告書を使用する (アジアンリソース㈱)	年	17.0	当該プロジェクトで使用するペレットの分析値	低位発熱量基準
<i>HV PJ,auxiliary</i>	プロジェクト実施後の追加設備に使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	Ⅲ	デフォルト値(灯油)を使用する	年	36.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>CEF PJ,auxiliary</i>	プロジェクト実施後の追加設備に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(灯油)を使用する	-	0.0678	デフォルト値	
<i>CEF electricity,t</i>	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	-	0.000487	デフォルト値	全電源2012年度
<i>CEF BL,fuel</i>	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(灯油)を使用する	-	0.0714	デフォルト値	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。  
 分類Ⅰ (実測) を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類Ⅱ (第三者提供値) を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

## A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

### （1）計量器の概要

#### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

#### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

### （2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--

### A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量、 ②プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量、 ③プロジェクト実施後の追加設備における灯油使用量、 ④プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量
<p>(推定・概算方法)</p> <p>①プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量 (KL)</p> <p>=輸送量 (t) × 輸送距離 (km) × 輸送トンキロ当たり燃料使用量 (L/(t・km)) /1000</p> <p>輸送量…バイオマス固形燃料提供事業者による購入伝票により把握 13t/年                      輸送距離…バイオマス固形燃料の原料伐採地～固形化处理施設までの走行距離27.7km                      輸送トンキロ当たり燃料使用量…トンキロ法にて算出</p> <p>※モニタリング算定規程（排出削減用） p 19～20「車両の燃料使用原単位」による                      小型・普通貨物車（軽油）、最大積載量2,000kg、平均積載率58%、営業用                      …原単位0.124L/t・km</p> <p>よって 13t/年 × 27.7km × 0.124 /1000 = 0.0447KL</p> <p>② プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量 (KL)</p> <p>=輸送量 (t) × 輸送距離 (km) × 輸送トンキロ当たり燃料使用量 (L/(t・km)) /1000</p> <p>輸送量…バイオマス固形燃料提供事業者による購入伝票により把握 13t/年                      輸送距離…バイオマス固形燃料の原料伐採地～固形化处理施設までの走行距離28.6km                      輸送トンキロ当たり燃料使用量…トンキロ法にて算出</p> <p>※モニタリング算定規程（排出削減用） p 19～20「車両の燃料使用原単位」による                      小型・普通貨物車（軽油）、最大積載量4,000kg、平均積載率62%、営業用                      …原単位0.0844L/t・km</p> <p>よって 13t/年 × 28.6km × 0.0844 /1000 = 0.0314KL</p> <p>③ プロジェクト実施後の追加設備における灯油使用量</p> <p>いちごFハウスのみ着火用に灯油を使用をするため、タンク容量および給油回数にて使用量を把握する。</p> <p>着火用灯油タンク…38L シーズン給油回数…1回 よって38L/年</p> <p>※給油回数は、運転管理表にて確認する。</p> <p>④ プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量</p> <p>ペレット搬送用モーター定格消費電力 137W × 1台</p> <p>稼働時間…保守的に暖房運転時期は24時間稼働すると考える</p> <p>稼働日…運転管理表よりシーズンの運転開始日および運転終了日を確認する</p> <p>よって 137W × 1台 × 24h × 151日 ÷ 1000 = 496kWh/年</p>	

(モニタリングポイント)

#### A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	

投資回收年

投資回收年	<b>8.6</b> 年
-------	--------------

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
$ER$	排出削減量	tCO2/年	32
$EM_{BL}$	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	81.1
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	48.2

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

##### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 付随的な排出活動である「バイオマス原料の運搬」、「バイオマス固形燃料の運搬」については影響度による算定を、「バイオマス固形燃料化処理設備の使用」、「対象設備に付帯する追加設備の使用」についてはモニタリングによる算定を行う。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	0.6	2.0	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料化処理設備の使用	42.6	133.1	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料の運搬	0.4	1.4	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
対象設備に付帯する追加設備の使用	4.5	14.2	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	48.2	150.7	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1 バイオマス固形燃料（木質ペレット）を活用するため、プロジェクト実施後の主要排出量は 0 tCO2/年である。

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport,feedstock} + EM_{PJ,S,proces} + EM_{PJ,S,transport,biosolid} + EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (\text{式4})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	48.2
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.6
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	42.6
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.4
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	4.5

$$EM_{PJ,S,transport,feedstock} = F_{PJ,S,transport,feedstock} \times HV_{PJ,transport,feedstock} \times CEF_{PJ,transport,feedstock} \quad (\text{式5})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.6
$F_{PJ,S,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	KL/年	0.244
$HV_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.7
$CEF_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,proces} = 0.6 \times PV_{PJ}$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,proces}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	42.6
0.6	バイオマス固形燃料化処理設備の使用におけるプロジェクト実施後排出原単位（デフォルト値）	tCO2/t	0.6
$PV_{PJ}$	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	71.0

$$EM_{PJ,S,transport,biosolid} = F_{PJ,S,transport,biosolid} \times HV_{PJ,transport,biosolid} \times CEF_{PJ,transport,biosolid} \quad (\text{式8})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	バイオマス固形燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.4
$F_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	KL/年	0.171
$HV_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	37.7
$CEF_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686



$$EM_{PJ,S,auxiliary} = EL_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,t} + F_{PJ,auxiliary} \times HV_{PJ,auxiliary} \times CEF_{PJ,auxiliary} \quad (\text{式9})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO <sub>2</sub> /年	4.5
$EL_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	9,328
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO <sub>2</sub> 排出係数	tCO <sub>2</sub> /kWh	0.000487

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の熱源設備による生成熱量を、プロジェクト実施後の熱源設備からではなく、ベースラインの熱源設備から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat,output} = Q_{PJ,heat,output} = F_{PJ,biosolid} \times HV_{PJ,biosolid} \times \epsilon_{PJ}/100 \quad (\text{式b-1})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備における生成熱量	GJ/年	1,027.2
$Q_{PJ,heat,output,T}$	プロジェクト実施後の対象設備における生成熱量（トマトハウス）	GJ/年	1,027.2
$F_{PJ,biosolid,T}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量（トマトハウス）	t/年	71.0
$\epsilon_{PJ,T}$	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率(低位)（トマトハウス）	%	85.1
$HV_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量（低位）	GJ/t	17.0

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って、排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = Q_{BL,heat,output} \times 100 / \epsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式b-5})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	81.1
$EM_{BL,T}$	ベースラインの主要排出量（トマトハウス）	tCO2/年	81.1
$Q_{BL,heat,output,T}$	ベースラインの対象設備による生成熱量 (=Q <sub>PJ,heat,output</sub> ) トマトハウス	GJ/年	1,027.2
$\epsilon_{BL,T}$	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率(低位)（トマトハウス）	%	90.4
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0714

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式 )

記号	定義	単位	想定値

#### A. 4.1 モニタリング計画

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>F PJ, biosolid, T</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量 (トマトハウス)	t/年	A	ペレット供給会社からの納品書より把握する	月	71	暖房燃料のシュミレーション数値より	
<i>F PJ, transport, feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	kL/年	C	送距離及び使用車両、燃料、積載率の変更の有無を確認して把握する	年	0.244	輸送距離及び使用車両、燃料、積載率に基づいた燃費法	
<i>F PJ, transport, biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	kL/年	C	送距離及び使用車両、燃料、積載率の変更の有無を確認して把握する	年	0.171	輸送距離及び使用車両、燃料、積載率に基づいた燃費法	
<i>PV PJ</i>	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	A	ペレット供給会社からの納品書より把握する	月	71	暖房燃料のシュミレーション数値より	
<i>EL PJ, auxiliary</i>	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	C	搬送機のモーターおよび循環ポンプの定格消費電力が書かれた銘盤写真を保管 設備定格電力×設備稼働時間で把握	月	9,328	カタログでの設備定格電力×稼働時間	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B (計量器) を用いる場合には、A. 4. 2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C (概算等) を用いる場合には、A. 4. 3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>HV PJ,transport,feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料の単位発熱量	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	37.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>HV PJ,transport,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/KL	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	37.7	デフォルト値	高位発熱量基準
<i>CEF PJ,transport,feedstock</i>	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	0.0686	デフォルト値	
<i>CEF PJ,transport,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(軽油)を使用する	年	0.0686	デフォルト値	
<i>ε BL,T</i>	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率 (トマトハウス)	%	Ⅱ	カタログ値を使用する (ネボン㈱、㈱タケザワ、三州産業㈱)	-	90.4	カタログ資料	低位発熱量基準
<i>ε PJ,T</i>	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率 (トマトハウス)	%	Ⅱ	カタログ値を使用する (㈱丸文製作所)	-	85.1	カタログ資料	低位発熱量基準
<i>HV PJ,biosolid</i>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量 (低位)	GJ/t	Ⅱ	供給会社からの分析結果報告書を使用する (アジアンリソース㈱)	年	17.0	当該プロジェクトで使用するペレットの分析値	低位発熱量基準
<i>CEF electricity,t</i>	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	-	0.000487	デフォルト値	全電源2012年度
<i>CEF BL,fuel</i>	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値(灯油)を使用する	-	0.0714	デフォルト値	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。  
 分類Ⅰ (実測) を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類Ⅱ (第三者提供値) を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

## A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

### （1）計量器の概要

#### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

#### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

### （2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--

### A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量、 ②プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量、 ③プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量
<p>(推定・概算方法)</p> <p>①プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量 (KL)</p> <p>=輸送量 (t) × 輸送距離 (km) × 輸送トンキロ当たり燃料使用量 (L/(t・km)) /1000</p> <p>輸送量…バイオマス固形燃料提供事業者による購入伝票により把握 71t/年 輸送距離…バイオマス固形燃料の原料伐採地～固形化处理施設までの走行距離27.7km 輸送トンキロ当たり燃料使用量…トンキロ法にて算出</p> <p>※モニタリング算定規程（排出削減用） p 19～20「車両の燃料使用原単位」による 小型・普通貨物車（軽油）、最大積載量2,000kg、平均積載率58%、営業用 …原単位0.124L/t・km</p> <p>よって 71t/年 × 27.7km × 0.124 /1000 = 0.244KL</p> <p>② プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量 (KL)</p> <p>=輸送量 (t) × 輸送距離 (km) × 輸送トンキロ当たり燃料使用量 (L/(t・km)) /1000</p> <p>輸送量…バイオマス固形燃料提供事業者による購入伝票により把握 71t/年 輸送距離…バイオマス固形燃料の原料伐採地～固形化处理施設までの走行距離28.6km 輸送トンキロ当たり燃料使用量…トンキロ法にて算出</p> <p>※モニタリング算定規程（排出削減用） p 19～20「車両の燃料使用原単位」による 小型・普通貨物車（軽油）、最大積載量4,000kg、平均積載率62%、営業用 …原単位0.0844L/t・km</p> <p>よって 71t/年 × 28.6km × 0.0844 /1000 = 0.171KL</p> <p>③ プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量</p> <p>ペレット搬送用モーター定格消費電力 137W × 2台 循環ポンプ（トマトハウスの温等ボイラー） 1,150W × 2台 稼働時間…保守的に暖房運転時期は24時間稼働すると考える 稼働日…運転管理表よりシーズンの運転開始日および運転終了日を確認する</p> <p>よって 137W × 2台 × 24h × 151日 ÷ 1000 = 993kWh/年 1,150W × 2台 × 24h × 151日 ÷ 1000 = 8,335kWh/年 993 + 8,335 = 9,328kWh</p>	

(モニタリングポイント)

#### A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	